

## 第 53 回 雁ヶ腹摺山(がんがはらすりやま)ハイキング

第 4 支部 丁子屋塗料 (株)

秦 明彦

平成 23 年 8 月 28 日 曇り時々雨

雁ヶ腹摺山は、同名の山が3つ近くにあります。

そのうち笹子雁ヶ腹摺山は、数年前にこの会で登りました。今回は、2つ目の雁ヶ腹摺山(南大菩薩1,874m)です。この山は、500円札の富士山で有名ということです。もう1つの牛奥ノ雁ヶ腹摺山は、全くわかりませんが、そのうち、ハイキング同好会で登ることになるでしょう。

実は、私は、昨年夏の箱根金時山以来の参加で、この1年ほとんど山歩きをしていないのと、オーケストラのソロのプレッシャーなどで運動不足はなはだしく、少々不安でした。しかし、1,600m地点の登山口から300m弱登るだけだから、大丈夫と考え、参加したのが、大きな間違いでした。

さて、今回の参加者は、幹事の乾さん、原夫人、山本さん、小川さん、私の5人、8時50分大月駅に集合し、タクシーで、登山口の大峠まで入りました。どの位かかったか、カーブの連続でかなり登ったと記憶しています。なるほど、ここからなら楽だと思いました。

小川さんを先頭に登山道に入ると、すぐに息が荒くなってきました。どうやら小川さんのペースが速かったようで、途中で山本さんは休憩、私も苦しみながら頂上へ到着。疲れて500円札に写る富士山方面も確認せず、もったも今日は曇りで富士山は見えませんでした。

さて、しばし休憩後、姥子山方面の尾根を下り、古樫平を経て、奈良子林道に下り着きました。

ここから姥子山への登りです。姥子山は双峰で、西峰を経て、東峰へ到着、東峰は岩峰になっていて、展望はいいはずですが、残念でした。いよいよ、疲れがひどく、ヘナヘナと座り込んでしまいました。ここで、乾さんより冷えたビールをいただき、下山となりました。

再び奈良子林道に戻った頃には、太ももが限界でほとんど力が入らない状態でした。実は、ここから長く厳しい下りの始まりだとは、この時は、思いもよらなかったのです。

奈良子林道は未完成のようで、すぐに下山道は急坂となり、後ろを辛抱強くついてくれた乾さんに途中先に行ってもらいました。やっとの思いで林道に降りると小川さんが待っていてくれて、ほっとしました。林道を少し進むと百間

干場という河原に下り着きました。ここで皆待っていてくれました。

ここから全山峠へ登り、また苦しい急坂を下ることになり、啞然としていると、今度は沢沿いの道を右岸、左岸へと渡りながら進まねばならず、大変な事になりました。脚の踏んばりがきかず、木橋を渡るのが厳しく、最後から2番目の木橋が若干斜めになっていたのも、バランスがとれず小川さんに助けてもらい、ようやく林道に降り、ほっとした次第です。

この間、ずっと小川さんに先導してもらい、大変感謝です。林道を下れば、ほどなくゴールの金山鉱泉へ、大幅に遅れ、到着は確か、3時を廻っていたと思います。先に到着した皆さんには、心配をかけて、申し訳ありませんでした。後で1,100mも下ったという事を聞き、なるほど苦しかったわけだと納得しました。

タクシーで大月へ戻り、相模湖のかどやへ到着すると磯部さん、原さん、若林さんが宴もたけなわでした。かどやは、毎度のことながら、大変落ち着けるお店で、大いに盛り上がり、苦しかった山行のことなど、完全に忘れてしまいました。